

平成 23 年度

事業報告書

特定非営利活動法人 日本リザルツ



平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日

平成 23 年度事業活動&トピックス
(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

日付	活動内容
1 月 ★12 日 ハイチ大地震 1 年目	
3 日	外務省 長期スタディプログラムへの参加 外務省支援による上記プログラムに三浦大紀が参加し、Foundation Center (ニューヨーク) と RESULTS Education Fund (ワシントン) など米国において 6 週間の研修を受けた。後日、活動報告書に加え、日記報告書を作成した。
11 日～ 12 日	ハイチアート展覧会 ～アートが命を繋ぐ～ @憲政記念館 二日間の来場者数は約 300 名と大盛況であった。絵画は(株)三河屋奥右衛門の石川泰久氏からご提供いただき、フォトジャーナリスト佐藤文則氏の写真展示も同時に行った。ヴィネアージェン・パティスト ハイチ共和国代理大使、日本ハイチ友好議員連盟会長の谷垣禎一衆議院議員やストップ結核パートナーシップ推進議員連盟副会長大河原雅子、事務局長浜田昌良、姫井由美子議員をはじめとする多くの国会議員、外務省の方々にも足を運んでいただいた。 また、ハイチに様々な形で関わっている団体や NGO からのご参加、ご協力をいただいた。NHK ニュース等にも取り上げられ、白須事務局長がインタビューを受けた。現在は、被災した東北 3 県や全国における展覧会と、国連本部(ニューヨーク)におけるハイチ大地震 3 年目同展覧会開催に向けて準備を進めている。
11 日	ハイチ募金@三崎町交差点
11 日～ 13 日	フィリピン調査事業 フィリピンでのごみ山周辺に住む人々を支援する日本での案件形成のため、狩野伊知郎が現地を訪れ調査を行った。現地では、映画 BASURA の監督である四ノ宮浩氏、現地コーディネーターをお願いしている棚橋秀樹氏や、クリスティーナなどとも意見交換を行った。
15 日	国際結核シンポジウム～世界から関西の結核を考える～へ参加@関西大学 参加者は約 300 人で、関西の行政関係者、大学、病院、医師・看護師、保健師、大学院生、学生などであった。リザルツの仲介でキャロル・ニレンダ氏(ストップ結核パートナーシップ理事、前世界基金理事、ザンビア)を招聘した。キャロル氏の他、クマレサン氏(WHO 神戸センター所長)やプブレト博士(結核予防会フィリピン事務所副所長)、ポーラ博士(国際結核肺疾患連合 UNION 理事)などの発表があった。今後、高鳥毛敏雄教授(関西大学)をはじめ、熱心で協力的な関西の関係者の力を結集して、関西の結核対策や公衆衛生課題の解決にあたるとともに、世界の結核の現状・課題についても、より関心をもってもらい、世界に向けて行動を起こすことになった。
17 日	財務省石井菜穂子副財務官と意見交換 革新的資金メカニズム等、地球規模課題解決に向けた新しいファンド設立について、石井副財務官と意見交換を行った。オルタモンドの田中徹二氏(日本リザルツ理事)、白須紀子事務局長が参加した。
18 日	航空券連帯税の全日空(ANA)への申し入れ リザルツを含む連帯税を推進する NGO のグループが全日空の幹部と面会し、2010 年 12 月の第 8 回

	リーディンググループ総会およびその前日の国際 NGO 会合での決議内容を説明した。ANA からは、日本の航空業界の苦しい現状を踏まえると、どのような新規課税も受け入れられないとの前回(2010年10月18日)の回答と同様であったが、航空利用者である市民の声が大切という点では合意が得られた。
24日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
25日	国際連帯税フォーラム理事会への出席
26日～ 30日	台湾調査事業 台湾にあるエイズ孤児院や病院を傘下に持つ NGO(ハーモニー・ホーム)をボランティア医師であるジョゼフ・デヤマ氏の仲介により、白須事務局長とインターン大嶋洋介2人で視察した。現地へ赴き、エイズ孤児や施設スタッフと寝食を共にし、ニコール・ヤン代表よりハーモニー・ホーム設立の経緯、今後の展望について伺いながら、中国・台湾を巡るエイズ諸問題を考察した。
31日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
2月	
3日～4日	CSO 開発効果に関する「国内コンサルテーション」へ参加 CSO 開発効果に関する国際枠組み案について議論。CSO の開発効果と ODA の援助効果について市民社会が議論した。グループセッションでは、狩野から米国政府の自国 NGO 支援を例にとり日本の CSO のために一層の資金的援助を外務省担当官にお願いした。
3日	日本ラム協会が事務所訪問 日本ラム協会の方(4名)から、ハイチ国の須藤昭子シスター宛ての寄付金を頂く。
7日	世界基金、GAVI について外務省藤原聖也審議官と面会 外務省藤原聖也審議官と面会し、GAVI への新規資金と複数年の拠出、世界基金への継続的な資金拠出を要望した。
7日	「バスーラハウス」運営会合 四ノ宮監督を含めた、バスーラ関係者とリザルツ事務所で今後の運営についての会合を開いた。
8日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
9日	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)への問題点を指摘 エコチル調査の事業計画の再検討を求める要望書を坂口力衆議院議員、阿部知子衆議院議員に提出した。資料文書は浅野茂隆理事長により作成され、手交した。
9日～ 19日	ハイチ国現地調査 外務省の開発協力事業の一環としてハイチ調査事業が行われ、白須事務局長と森亨医師、角泰人医師(リザルツ顧問)がハイチへ渡った。日本ラム協会からお預かりした寄付金(459,869円)と、リザルツからの寄付金(街頭募金、ハイチ絵画展、リザルツの一般寄付者からお預かりしたもの)第3回目分(198,024円)を須藤昭子シスターにお渡しした。 団員であったストップ結核パートナーシップ(STBJ)の森亨医師らとともに、3月16日に厚生労働省で記者会見を行い、3月末に今回の報告書(日本語版と英訳版)をまとめ外務省へ提出した。
10日	ハイチ募金@三崎町交差点
14日	MDGs フォローアップ会合の説明会

	6月2、3日に東京の三田共用会議所で開催されるMDGsフォローアップ会合のNGO向け説明会が行われた。2015年の達成に向けてどのように取り組むべきか、特に保健、教育について先進国・新興国・途上国・国際機関・市民社会・有識者・ビジネス・財団などを集め議論する。これにあわせ、リザルツはミレニアム・プロミス・ジャパン(鈴木りえこ氏)と共同で貧困や結核などに焦点をあてたサイドイベントを計画している。また、当会においてリザルツからは国連ミレニアムプロジェクトのディレクターであるジェフリー・サックス氏の来日を提案した。ミレニアム・プロミス・ジャパンとの連携も深めている。
16日	G20 財務大臣会合へ向けての申し入れ G20 財務大臣会合へ向けて、日本のNGOから11名がG20・G8の今年の議長国フランスの大使館を訪問し、金融取引税の導入に向けて、フランスがリーダーシップをとることを要請した。大使館担当者からは、申し入れは伝える、フランスはアフリカや食料問題についても議題化するとの反応があった。
22日	国際連帯税導入のための活動 白須事務局長がオルタモンド田中徹二氏(日本リザルツ理事)と共に、財務省副財務官浅川雅嗣氏と開発政策課長仲浩史氏のもとを訪問し、国際連帯税の導入についての要望と意見交換を行った。
25日	国際連帯税での国連次長との会合@グローバル・ヘルス・フォーラム 2011に参加 基調講演では、国連次長フィリップ・ドストブラジ氏が2015年のMDGs達成にむけて革新的資金メカニズムが必要であることを力説した。その後のパネル討論では、韓国政府代表からは、韓国航空券連帯税のレビューについて、GAVI(ワクチンと予防接種のための世界同盟)代表からは、国際金融ファシリティ(IFF)などの新資金メカニズムの必要性についての言及があった。これに先立ち、リザルツを含めた日本での連帯税を推進するグループはドストブラジ氏・フランス大使館館員と今後の日本国内でのアドボカシーの進め方について1時間にわたり議論を行い、しっかり協力していくことを確認した。
3月 ★11日 東日本大震災 ★24日 世界結核デー	
1日	ハイチ支援@カフェハイチ ハイチを支援する団体や1月に行われた絵画展にも参加した関係者などが集まり、各団体の支援状況や現地状況について情報交換を行った。ハイチへ第一陣として入った山本太郎氏(長崎大学教授、元外務省国際協力局)、今回のハイチ調査ミッションに参加した森亨氏(STBJ代表理事)、角泰人氏(日本リザルツ顧問、STBJシニアアドバイザー)、白須が現地の最新情報を提供し、今後もこのような場をもっていくこととなった。また、当日須藤昭子シスターの飛び入りで参加した。
5日	浜田昌良議員と会談 高鳥毛教授(関西大学)、白須、石塚で浜田議員を訪ねた。生活保護対象者の結核医療費負担について現状説明を行うとともに、改善策を提案した。浜田議員から早速、厚生労働省への事実確認が行われ、今後の対策の検討に入った。
11日	ハイチ募金@三崎町交差点 東日本大震災 2時46分発生
15日	リザルツレター vol.17 発行
21日～	放射性被曝治療の世界的権威米国人ロバート・ゲイル博士の来日

31日	リザルツは、福山哲郎官房副長官、谷垣禎一自民党総裁と西村康稔議員、公明党幹部、東京電力、医療関係者、外国人記者クラブなどのメディア等との面会をセッティングし、新聞紙面やネットニュース、テレビ(海外テレビも)などで大きく取り上げられた。また、同博士とともに、福島県を視察し、Jビレッジや避難所を訪問した。浅野茂隆氏(日本リザルツ理事長)も同行した。
25日	リザルツ理事会、2010年度通常総会
4月	
1日	WHO 結核レポート(日本語版)の発刊 2010年10月にWHOで発行されたストップ結核パートナーシップ”The Global Plan TO STOP TB 2011-2015”の日本語版を印刷物として発行した。外務省、厚労省、JICA、結核予防会、STBJ関係者、国会議員などにも配布した。
1日	リザルツホームページにリニューアルを行った。
4日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
2日～6日	東日本大震災の被災地での現地視察・調査 白須事務局長は、岩手県沿岸部で被害の大きい地域である陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、山田町を訪ね、現地視察と被災者からの聞き取り調査を行った。
7日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
11日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口 リザルツは、ハイチ募金に加えて、東日本大震災による被災者の方々を支援する“つなみ募金”の箱を持って街頭での募金活動を始めた。
11日	緊急要望書の提出 民主党「地震災害復旧・復興検討委員会」は復興費用捻出のため、ODAを2割削減すべきとの要望を政府に伝えたのをうけ、リザルツは、「動く→動かす」とともに同委員会に対して要望の撤回を求める要望書を提出した。震災救援・復興と世界の貧困解消への取り組みの両立の重要性を訴え、議員会館を回った。
12日～13日	OECD 租税委員会の会合への出席 リザルツの会計担当佐藤吉寿が、日本のNGOとしてOECDの「国家建設と援助委員会」委員に初めて任命され、パリOECD本部での2日間の会合に日本から出席した。財務省副財務官浅川雅嗣氏は2011年6月から二年間OECD租税委員会議長に就任。白須事務局長は旧知の浅川氏からの誘いをうけ、佐藤を推薦し事務局から任命されることになった。
14日	ODA削減に関する勉強会 参議院議員会館内でODA削減に関する勉強会に参加した。民主、自民、公明、みんな、新党改革、たちあがれの各党から40名近い議員が集まった。参加議員には岩手県大船渡市や福島県を選挙区に抱える被災地選出の方々も多く、加えてマスコミも数社見られた。外務省、JICA、NGOからはリザルツの白須も参加し、「削減には断固反対」という総意を受け、7政党代表者が官邸へ申し入れを行い、要望書を仙石官房副長官に渡しました。また、20日にリザルツは、岡田克也幹事長の事務所に、ODA削減の動きに反対する意を記した書簡を届けた。
16日	JICAとの意見交換

	白須事務局長が国際協力機構(JICA)の小寺清理事と面会し、今後の国際保健政策について意見交換を行った。
19日	第6回アクションプランフォローアップ会合の開催 厚労省、外務省、JICA、結核予防会、STBJの5者にてフォローアップ会合が外務省で開催された。「2011-15年世界結核計画」(日本リザルツ訳)をもとに議論が行われ、2008年結核アクションプランの見直しを行うことになった。また、日本の経験・ノウハウを生かすべく二国間案件を継続・拡大しつつ、それをベースにさらに世界基金の資金を獲得すべく取り組んでいくことで合意した。
21日～ 26日	東日本大震災の被さい地視察 白須事務局長と三浦が、岩手県釜石市、大船渡市、大槌町、陸前高田市、住田町を視察し、現地ボランティア団体のカリタスジャパン釜石ベースなどの関係者との話し合いと炊き出しに参加した。住田町では、町長から震災後の現状と仮設住宅プロジェクトの詳細な説明をうけ、その後町長と共に建設中の現場への視察を行った。最終日には、山形県の酒田市で行われていたハイチアート展に足を運んだ。
27日	病院船の初会合@衆議院議員会館 浅野茂隆理事長と白須事務局長が衆議院議員会館で開かれた病院船に関する初会合に出席した。
27日	大阪府健康医療部長との打ち合わせ@東京 大阪府健康医療部長高山佳洋氏と大阪府結核対策の海外発信などの意見交換を行った。
28日	外務省訪問 白須事務局長が国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)職員大澤小枝氏と外務省を訪問した。
5月	
2日	ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の総会が開催され、一次補正予算案における501億円のODA削減に伴い、世界基金への拠出も159億円が全額見送りとなったことに対し、リザルツからは、先日JANIC、動く→動かすの声明文を持って全国会議員へまわったいきさつを含め、国際NGOとしてもODA削減には強く反対する旨を発言した。世界基金への日本政府からの拠出削減への早期対応を求める要望書を議連として内閣総理大臣宛てに提出した。白須事務局長も同行し、枝野官房長官から「世界基金の重要性の認識のもと、今後の補正予算編成に向けて前向きに検討していく」という回答が得られた。
5日～ 8日	東北宮城県の視察 白須事務局長が(特活)セーブ・ザ・チルドレンの活動に同行し、宮城県気仙沼と石巻で現地調査を行った。高橋真知子氏(震災ボランティア)と共に住吉中学校の骨髄バンクの被さい者や遺族を訪問した。
10日	国際連帯税創設の勉強会@衆議院第2議員会館 「国際連帯税創設を求める議連」の勉強会を開催し、鳩山由紀夫前首相ら民主党議員を中心に、代理も含めて39人が出席した。
11日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口

12日	外務省訪問 白須事務局長が武見敬三東海大学教授（前参議院議員）、外務省地球規模課題審議官大使の平松賢司氏、国際協力局国際保健政策室長の小沼士郎氏と面会し、今後の日本の国際保健政策について意見交換を行った。
5月～7月	DOTS 研修の開始 結核研究所でのストップ結核研修 (DOTS 研修：3 か月コース) に石塚彩職員が参加した。研修は英語で行われ、参加者は途上国の結核関係者の7カ国の10数名であった。6月1日には清瀬にある結核研究所で、世界の結核対策のトップであるWHOのマリオ・ラビリョーネ結核部長による特別講義が行われた。
18日	「病院船」会合@国会議事堂 白須事務局長が、国会議事堂で開かれた「病院船」会合に参加した。
19日	ストップ結核パートナーシップ日本 (STBJ) 常任理事会への出席
24日	外務省・NGO 定期協議会 白須事務局長らは、外務省とのNGO定期協議会に参加した。その席で世界基金の第一次補正による削減分501億円の早期復活の要求について、松本外務大臣からは「できるだけ早いうちに財源を取り返したい」との言葉があった。白須事務局長が二次補正に向けた姿勢を直接質問したところ、山花外務大臣政務官から「二次補正できちんとやります。世界基金についても手当をします。」という回答が得られた。
24日	棚橋氏の来日 フィリピンで「バスーラの家」の運営などを行っている棚橋秀明氏が来日し、副理事長の佐々木経司とフィリピン事業について終日打ち合わせを行った。
6月	
1日	ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会合 世界の結核対策のトップであるWHO結核対策部長マリオ・ラビリョーネ博士から世界の結核最新事情、結核戦略、二重感染、多剤耐性、日本のこれまでのWHOや世界基金への貢献、今後の日本への期待（新結核診断法・結核薬の開発など）などについての報告があり、参加議員との質疑応答も行った。リザルツも会合に参加し、梅村聡会長、大河原雅子・高階恵美子副会長、浜田昌良事務局長、逢沢一郎、川田龍平議員などと意見交換を行った。
1日	WHO 結核部長との訪問 白須事務局長は、WHO結核部長マリオ博士とともに、細川律夫厚生労働大臣、阿曾沼事務次官、財務省門間大吉国際局審議官などを表敬訪問し、国際保健分野の日本の貢献についての意見交換と日本の世界への結核対策を強くお願いした。大臣からは今後も結核分野を応援していくとの力強い言葉をいただいた。その後、清瀬市の結核研究所で途上国の結核対策者を対象とする3ヶ月の「ストップ結核アクション研修」で、世界の結核の現状・対策について2時間半にわたって特別講演・質疑応答を行った。2日は、日本結核病学会での特別講演、3日は、結核予防会の名誉総裁秋篠宮妃殿下を表敬訪問した。
1日	議員勉強会への参加 「震災後のODA政策とミレニアム開発目標の今後」と題した、国会議員の勉強会に参加した。

	<p>テーマは、世界の貧困の最新の状況と国際社会の取り組みへの評価を行うとともに、国内に後発開発途上国のような状況を抱えることになった日本が今後国際協力にどう取り組むべきかの二点であった。一次補正でカットされてしまった ODA の復活を力強く訴えた。と、同時により効果的な ODA となるように精査していく必要性もあると意見があがった。</p>
3 日	<p>第 86 回日本結核病学会総会@東京</p> <p>ストップ結核パートナーシップ日本などとともに現地で被さい者の罹患状況の調査にあたった角泰人医師（リザルツ顧問）は、地震後のハイチの結核状況を報告した。震災のあと結核の発症は各方面からの援助などもあってやや落ち着く傾向にあるもののいまだに各地でがれきがそのまま 全国のおよそ 30 パーセントにあたる地域で住民が結核予防のための十分な情報さえまともに受けられていない現状と、テントで暮らす被さい者から新たな患者が出ているといった課題や継続的な支援の必要性が報告された。</p>
3 日	<p>GAVI アライアンス CEO と面会</p> <p>外務省主催の MDGs フォローアップ会合が 6 月 2, 3 日と三田共用会議所で開催されたが、3 日には、GAVI アライアンス（ワクチンと予防接種のための世界同盟）の CEO（暫定）のヘレン・エバンス一行と白須事務局長らが面会した。エバンス氏からは今後日本の市民社会との連携を強化して行きたいとの発言があり、日本リザルツに期待する発言もあった。6 月 13 日には、GAVI の招待で白須事務局長がロンドンで GAVI の国際拠出会合に参加し、日本からは伴野豊外務副大臣が出席して、日本から初めての資金拠出約束を行う運びである。</p>
7 日	<p>元会計担当の三澤千和が長男「旅人（たびと）」君を連れて米国から一時帰国し、事務所を訪問した。世界銀行奨学金を得てコロンビア大学院でマイクロクレジットを学んでいる。</p>
8 日～ 10 日	<p>国連エイズハイレベル会合@ニューヨーク</p> <p>政府代表団には、外務省、厚生労働省及び国際協力機構（JICA）のほか、NGO の代表（4 団体）も代表団顧問として参加し、日本リザルツから狩野が情報収集を行い、また関係者と意見交換を行った。今回のハイレベル会合では、2001 年国連エイズ特別総会の「HIV/エイズに関する誓約宣言」採択から 10 年を経て、HIV 及びエイズを巡る問題が依然として国際社会における喫緊の開発課題であるとの認識の下、政治宣言が採択され、これまでのエイズ対策に関する実績についての評価が盛り込まれるとともに、包括的な HIV 予防対策やエイズの治療や社会支援のユニバーサル・アクセスを達成するための努力を強化するとの決意が表明されました。この会合には、川田龍平議員も参加し、スピーチを行い、A J F の稲場雅紀氏とともに現地で NGO などと交流を行った。</p>
10 日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p> <p>募金後、東北支援活動を行っていたセーブ・ザ・チルドレンの越川芳枝氏が事務所を訪問した。</p>
13 日～	<p>GAVI アライアンス増資会合@ロンドン</p> <p>白須事務局長が英国政府・GAVI 事務局からの招待を受け、ロンドンの GAVI 拠出会合に出席した。ボランティアの角田直毅氏と共に参加。現地では、日本は、GAVI に対して初めて 9.3 百万ドル（約 7 億 5 千万円）を拠出することだけでなく、翌年以降も相応の拠出を行う用意があると表明した。そして、拠出額全体の合計は、当初目標としていた 37 億ドル（約 2,970 億円）を大幅に上回る 41 億ドル（約 3,280 億円）に達した。前日の 12 日には、セーブザチルドレン英</p>

	<p>国で世界の市民社会の GAVI 準備会合、夕刻には英国政府主催の公式レセプションに参加した。幸運にもビルゲイツ氏の隣であった。</p>
18 日	<p>福島県視察 福島第一・第二原発で働く職員の健康面などを今後専門家とともに詳細に調査するための準備と、いわき市での「生活再建・事業再建ハンドブック」の普及状況を把握するため、福島県いわき市を幸道秀樹医師と訪問した。行政職員と被さい者の間でハンドブックがほとんど周知されておらず、生活・事業の再建へと第一歩を踏み出そうとする被さい者から相談を受け、事業の再開をサポートする活動がいかに重要であるかという認識を強く感じた。</p>
19 日～ 21 日	<p>リザルツ教育基金 (REF) 主催の国際会議@ワシントン DC リザルツの教育担当スタッフが、アメリカ国内と海外のリザルツ又は協力する NGO が集まって、1 年の成果を発表し、お互いに情報を交換し合う会議に参加した。また、日本リザルツは、東日本大震災とその後の厳しい状況の中での活動も紹介した。</p>
20 日	<p>病院船シンポジウム 大災害が起きた時に海からの医療活動を可能にする「病院船」のあり方について考えるシンポジウムに出席した。その必要性を訴える提言や意見について活発な議論が展開された。また、早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構機構長で、日本リザルツ理事長でもある浅野茂隆氏は「病院船の建造は医療だけでなく、海洋技術や情報通信など関連する多くの産業を活性化させ人材育成にも直結する。」としてその波及効果ははかり知れない可能性を秘めたプロジェクトであることを強調した。その後、調査研究の予算化がなされた。</p>
22 日～ 23 日	<p>岩手県視察 白須事務局長とスタッフが、岩手県釜石市、大槌町、陸前高田市の現場を視察し、東北での復興支援活動について地元協力者や団体との話し合いを行った。また、23 日には、釜石市の被さい者からの相談に応じて、市役所に同行し事業再建への支援を求める話し合いを行った。</p>
24 日～ 25 日	<p>第 9 回リーディンググループ総会@マリ首都バマコ 世界各地の貧困や病気それに気候変動による天災などの被害を食い止めるための資金集めの方法を考えようとフランスなどの呼びかけによって創設された「開発のための革新的資金調達に関するリーディンググループ」の第 9 回総会が開催され、日本からは川田正博大使が出席するほか、日本の NGO として招待を受けたりザルツから、海老原淳が出席し、日本の国際連帯税の取り組みの現状について発表を行った。</p>
25 日	<p>国際連帯税フォーラム設立総会および記念シンポジウムの開催 2009 年に創設された国際連帯税推進市民の会 ACIST の後継団体として国際連帯税フォーラムの設立が承認され、発足した。正会員団体として日本リザルツを含めて 10 団体、理事として日本リザルツ白須事務局長を含め 10 名が、また団体の代表理事 3 名（田中徹二氏、金子文夫氏）の一名として白須が満場一致で承認された。当日は青山学院大学会議場で、100 名を超える市民、学生、NGO、メディア、議員が集まり、横浜市立大学上村雄彦准教授、金子文夫教授、青山学院大学の三木義一教授の記念講演があり、その後活発な意見交換があった。</p>
26 日	<p>BASURA 上映会とトークセッション 佐々木経司副理事長が関わる千代田区の 3331 アーツ千代田で映画バスーラの上映会があり、そ</p>

	<p>の後、三浦大紀の司会のもと、四ノ宮監督と国際連帯税運動をリードしている田中徹二氏（日本リザルツ理事）とのトークセッションがあった。</p>
7月	
5日	<p>国際連帯税フォーラム理事会開催 実質的な今年度の活動方針などを決める第二回理事会が市ヶ谷自治労会館会議室において開催され、日本リザルツの海老原がLGバマコ総会の現地報告を行い、質疑応答を行った。この会議で日本のNGOとして国際連帯税への強いメッセージを発信しようということになった。また、一般向けキャンペーン、専門家グループの役割などについても活発な議論が行われた。</p>
5日	<p>JICA、外務省との意見交換 日本リザルツの海老原がLGバマコ総会の現地報告を、5日にJICA企画部の担当者と、6日には外務省国際協力局の松浦博司地球規模課題総括課長との間で意見交換が行われた。白須事務局長やオルタモンドの田中事務局長も同席した。既にヨーロッパの国々で実績をあげている資金調達の制度について、ODAとは別の援助資金源としてもっと注目を集められるように市民を対象にした啓発活動などへの理解と協力が表明された。</p>
8日	<p>結核対策の国際協力に関する予算についての要望 STBJとして国際協力関係結核対策予算・国内結核対策予算の充実について要望書を厚労大臣・事務次官・健康局長・感染症課長、また外務省国際協力局長、専門機関室長などに提出した。白須事務局長は、STBJの代表理事として参加した。</p>
11日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p>
11日	<p>国際連帯税導入に向け財務省を訪問 国際連帯税フォーラムメンバーが財務省国際局開発政策課の永海剛課長補佐を訪問し、国際連帯税についての意見交換を行った。リザルツから白須事務局長他3名、計11人が訪問した。国際連帯税導入に対する障壁などについても活発な意見交換がなされた。国際連帯税議員連盟開催など、国際連帯税フォーラムを通じた今後の動きをお知らせし、財務省の参加を要望した。また、意見交換を継続することを確認した。</p>
15日	<p>本格的な復興支援活動の開始 岩手県遠野市の現地事務所を拠点に、財団JKA・リングリングプロジェクトからの助成金を受け、本格的に釜石市の仮設住宅を中心とした復興支援活動を開始した。内閣府から発行されている「生活再建・事業再建ハンドブック」とリザルツ作成の簡易版リーフレットを届ける活動と、被さい者からの生活と事業再建に関する不安や悩みの声の聞き取り調査、専門家の出張形式相談会の活動を開始した。</p>
16日	<p>震災・いのち・医療のシンポジウム開催 四谷の主婦会館で、高橋真知子さん（震災ボランティア）川田龍平議員（参議院議員）、山本太郎教授（長崎大学教授・医学博士）などが、命・震災・医療というテーマで市民を対象にセミナーを行った。リザルツ狩野は、東日本・ハイチ・結核・エイズについてのリザルツの活動を紹介し、6月の国連エイズサミットの参加報告も行った。</p>
16日	<p>被さい者支援の炊き出し@釜石市 被さい者支援の炊き出しイベントが開かれ、リザルツやピースプロジェクト、それに場所を提</p>

	<p>供していただいた衣料品店「マックハウス」などが、被さいした方々に盛夏の連休を少しでも楽しんでもらおうと企画された。ホッケ弁当 500 食や復興を願ってデザインされた T シャツ 1,000 枚、「命のアサガオ」の種 2,000 袋などが配られ、スタッフとの交流を楽しんだ。そして会場近くの仮設住宅では、リザルツが内閣府から託された「生活・事業再建ハンドブック」と独自に作成した「簡易版リーフレット」を届け、NHK の取材を受けた。</p>
21 日	<p>JICA・国際協力機構と国際協力 NGO の代表者との会議</p> <p>国内外の事業や両者の協力のあり方について話し合う会議が 21 日に開催され、JICA 側は今後「国内」「国外」といった垣根をなくして各々の支援事業を展開する必要があると強調した。会場の JICA 地球ひろばの講堂には JICA 各部局と NGO の代表など合わせて 40 人あまりが集まり、主に東日本大震災をテーマに議論が白熱した。NGO 側からは、現在 58 の国際協力 NGO が被さい地で活躍し当初は炊き出しや生活物資の配給といった支援から、現在は住宅支援や避難所の運営といった二次的支援へと内容が変化していることが説明された。</p>
26 日	<p>国際連帯税導入に関する要望書の提出</p> <p>白須事務局長が代表理事を務める国際連帯税フォーラムは、外務省地球規模課題審議官大使の平松賢司氏に伝統的な ODA とは別の援助資金源としての国際連帯税の導入に関する要望書を提出し、28 日には民主党岡田幹事長に、8 月 2 日には高橋千秋外務副大臣にも同様の要望書を提出した。</p>
29 日	<p>ストップ結核パートナーシップ日本 (STBJ) 常任理事会への出席</p>
8 月	
1 日	<p>フィリピンプロジェクトのサポーターの訪問</p> <p>「バスーラの家」プロジェクトの有力なサポーター、「田無ソーシャルメディア研究会」の原田光久代表等が、リザルツの事務所を尋ねられ寄付金を託して頂いた。研究会はバスーラへの募金活動を定期的に行っている。また、白須事務局長からは「東日本大震災やハイチ大地震の被さい者などに対するリザルツの数々の支援活動について、田無ソーシャルメディア研究会でも広く取り上げて欲しい」と両団体の協力強化が呼びかけられた。</p>
4 日	<p>「動く→動かす」の運営委員会</p> <p>今年度 2 回目となる運営委員会に国内外で活躍する NGO の集まり、更なる ODA 向け予算の増額や今年も「スタンド・アップ テイク・アクション」の催しを前に加盟団体や一般市民への呼びかけを徹底することや、各団体のアドボカシー機能を強化する方法などについて熱い意見が交わされた。</p>
7 日	<p>専門家相談会@中妻町仮設団地</p> <p>釜石市昭和園グラウンドに建設された仮設住宅で、カリタスジャパンと多田自然農場、難民を助ける会と共に炊き出しイベントを開催した。被さいした住民が気軽に医師や弁護士に生活・事業再建について気軽に相談できるよう、同会場で相談スペースを設けた。東京から白須事務局長の他に、幸道秀樹医師、仙台から大張慎悟、坂本仁弁護士、遠野から奥寺修税理士が参加した。東京事務所のインターンの堤世良氏もイベントに参加した。</p>
8 日～9 日	<p>国際連帯税議連総会の開催</p> <p>国際連帯税創設を求める議員連盟総会が開催され、林芳正会長や齋藤つよし議連幹事長の他、</p>

	<p>多数の一般市民の方も参加し総勢 70 名以上でした。国際連帯税の創設に向けた課題や取り組みについての意見交換と話し合いを行った。当日をむかえるに当たり、7月25日に総会開催の案内を全ての国会議員に配布し、またフォーラムメンバー（市民・NGO）は面識ある議員に総会への参加をお願いしました。9日にも、リザルツのスタッフと田中徹二氏（リザルツ理事）が議員会館で国際連帯税に関する資料を配布して回った。</p>
10日	<p>GAVI キャンペーン</p> <p>「リザルツ GAVI キャンペーン事務局」を立ち上げ、100名以上の衆参の女性議員に「GAVI アライアンスと日本の貢献の可能性」の資料と手紙をFAXで送信した。また後日、議員会館において、同様の資料を結核議連他200名以上に配布活動を行った。</p>
11日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p> <p>この日は、12名のスタッフ・ボランティアが集まり、盛大に募金活動が行われた。被さい地で集めた流木を削って作られた「削り節」も合わせて配布され、道行く人たちに好評を博した。また、募金活動の場で流木の「削り節」も配布されるとあって、急きょNHKニュースの取材クルーの訪問も受け「削り節」のパックや募金活動の撮影が続けられ、今まで以上にスタッフの士気も高まった活動となった。東京事務所のインターンの堤世良氏が流木を削り「削り節」を作成し、NHKの取材対応を行った。</p>
20日	<p>専門家相談会@唐丹小白浜</p> <p>多田自然農場とカリタスジャパン、難民を助ける会と共に炊き出しイベントを開催した。相談会では、心理療法士や整体師などの専門家が参加し、仮設住宅の住民からの相談に応じた。</p>
23日	<p>GAVI アライアンス事務局の来日</p> <p>GAVI 事務局が来日し、JICA 地球広場で「外務省 NGO 研究会」による NGO 向けの活動紹介セミナーが開かれ、今後の日本での知名度アップを考える上での課題などが討議された。国内外で活動を続ける NGO の代表 20 人あまりが集まった。また、リザルツによる調整のもと、GAVI 事務局と関係省庁・国会議員を訪問した。GAVI アライアンスの事務局で日本を担当する北島知佳氏が、GAVI の目的などを説明し、さらにブライアン・ティスダル氏は、日本国民の間で GAVI アライアンスの知名度を上げるための知恵や啓発方法について各 NGO が もっと共通の目標を掲げ連携して取り組むべきだと強調した。</p>
25日	<p>世界銀行人間開発ネットワーク担当チーフ・エコノミストとの意見交換</p> <p>訪日中の世界銀行人間開発ネットワーク担当チーフ・エコノミストのアリエル・フィズバイン氏と少人数で世界銀行が行なっているインパクト評価（特に保健、教育分野を例として）に関する意見交換が世界銀行東京事務所で行われた。日本リザルツからは狩野と石塚が出席し意見交換を行った。他には東京大学大学院の澤田康幸准教授、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の黒田一雄教授、オックスファム・ジャパンの山田太雲氏が参加し、世界銀行東京事務所谷口所長と開氏の計8名で行われた。</p>
26日	<p>世界のワクチンの現状・政策に関する勉強会</p> <p>国会議員会館会議室で、GAVI アライアンス事務局と日本の貢献の可能性について国会議員の方々から意見を伺う勉強会をリザルツがセッティングし、国会議員・外務省担当者などと話し合われた。リザルツが、特にこどもと女性の健康に関心のある女性の国会議員を対象に、GAVI</p>

	アライアンス本部から来日中の上級資金調達官ブライアン・ティスダル氏を招いて開いたもので、石毛鏡子議員や西村智奈美議員の呼びかけに応じた各党所属の議員、議員秘書や外務省松浦博司地球規模課題総括課長などが集まった。
27日	専門家相談会@甲子町 釜石市の甲子第2仮設住宅で、現地協力団体が開催する炊き出しイベントと共に、専門家相談会を開いた。幸道医師と岩手県中小企業診断士の宮健氏(社団法人中小企業診断協会岩手県支部長)が参加し、住民からの相談に応じた。東京事務所から狩野と石塚が現地活動に参加した。
30日	質問主意書の提出 東北支援活動の聞き取り調査から得られた「生活再建・事業再建ハンドブック」に関する質問主意書を、浜田昌良参議院議員が提出した。
9月	
2日	「復興連帯税」 朝日新聞9月2日朝刊17面の「わたしの視点」に日本リザルツの海老原淳コミュニケーション・ディレクターの復興連帯税の投稿記事が掲載された。朝日の電子メディアでも収録。当団体理事のピーター・バラカン氏はこの記事を読み自分の番組で紹介したいとのコメントを早速寄せてくれた。
5日	『東日本大震災とNGO ～グローバルな視点を踏まえて』シンポジウム@新丸ビル キヤノングローバル戦略研究所の主催のもと、NGOが東日本大震災の復興活動に参加して、どのような成果をあげることができ、また、どのような問題や限界があったか、そして、今後の教訓は何か、という問題について、NGOの代表者がグローバルな視点を踏まえたシンポジウムが開かれ、意見交換を行った。ジャパン・プラットフォーム事務局長の椎名規之氏などがスピーカーとして復興支援活動についての話をした。遠野事務所のスタッフ2名も急遽参加した。NGOという支援者側の視点に立った報告が多いなか、リザルツのスタッフは現場の被さい者の声を代弁した発言を行った。シンポジウム後、新評論の山田洋氏から、「被さい者の視点に立った発言が素晴らしかった」などの言葉を頂いた。その後の懇親会では、日銀元副総裁福井俊彦氏と意見交換を行い、被さい者の声が反映されるようなシンポジウム開催を求めた。
9日	NGO-JICA 協議会のコーディネーター会議 NGOとJICAの協力のあり方について定期的に話し合う会議が都内で開かれ、リザルツからは海老原が委員として参加した。震災前から国内におけるNGOとJICAの連携の必要性を議論してきた中で、今後の国際協力事業を考える場合、震災や防災の課題について今こそ現場で議論する意味は大きいという意見が強く、10月の協議会を仙台で開く事を最終的に決定した。
9日	つなみ・ハイチ募金@水道橋駅東口
13日	リザルツレター18号の発送 リザルツレター18号の編集が終了し、印刷・発送作業を行った。岐阜の高木ミヨ子氏がボランティアとして支援に駆けつけてくれた。
14日	アエラスのウーレイ部長初来日 世界の結核ワクチン開発支援機関であるアエラスのジェニファー・ウーレイ・アドボカシー部長とともに14日から16日に渡って関係各所を訪問した。厚生労働省では、正林結核感染症課長、伊藤課長補

	佐、喜多ワクチン対策専門官(いずれも医師)と、財務省では、山崎国際局次長、新田課長補佐、外務省では、平松賢司地球規模課題審議官、藤原審議官、小沼士郎国際保健政策室長(医師)、またストップ結核パートナーシップ推進議連の梅村会長、古屋副会長、浜田事務局長と面会しアエラスについての説明を行った。日本リザルツではこれからもアエラスのような R&D 推進組織と緊密な連携を取り合って世界の結核削減に邁進していく。来週、アエラスは、ゲイツ財団・中国 CDC と共催で北京で国際研究者会議を開き、日本からは山本三郎、保富康宏博士など数名が参加する予定である。
14 日	GAVI のアドボカシー活動 リザルツのスタッフ 3 名が議員会館において、ストップ結核議連の議員をはじめ、約 200 名の国会議員に GAVI に関する資料を配布した。
20 日	日赤による危機管理研修 治安や衛生環境の確保が十分に出来ない国や地域での支援活動にあたる際の危機管理の仕方を学ぶ研修が日本赤十字社日赤国際部でアシスタントコーディネーターを務める藤巻三洋氏の協力を得て開かれ、リザルツと STBJ スタッフの下谷典代氏が自分たちでもできる安全対策を勉強した。リザルツでもスタッフがハイチやフィリピンで支援活動する予定もあることからこうした知識を最大限活用して安全確保を徹底していきたい。
25 日	専門家相談会@栗林町 釜石市栗林町で、専門家相談会を行った。角泰人医師(リザルツ顧問)、幸道秀樹医師と白須事務局長の古くからの友人である川島亨医師、中小企業診断士の宮健氏とファイナンシャルプランナー本館幸子氏、整体師と心理療法士など多くの専門家が参加して、住民からの相談に応じた。
29 日	玄葉外務大臣との面会 白須事務局長とオルタモンドの田中徹二氏(日本リザルツ理事)は、国際連帯税創設を求める議員連盟会長の林芳正議員と事務局長の西村智奈美議員と共に、玄葉光一郎外務大臣と面会し、国際連帯税の導入について意見交換を行った。
10 月	
1 日～2 日	グローバルフェスタ開催 10 月 24 日に青山学院大学で「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」と共同で行うポリオ根絶のための催しに、ヴォーカルメンバーの真戸原直人さん(本日のグローバルフェスタ出演者)を招いていることもあり、彼のステージ周辺でスタッフとボランティアメンバーが催しへの来場を呼びかけるチラシを 1000 人以上に配った。1 日には玄葉光一郎外務大臣も会場を視察に来られた。9 月 29 日に白須事務局長と面会した件で、この会場で大臣から国際連帯税導入に対する素晴らしい返事を直接頂いた。そして、玄葉外務大臣は海外で活躍する各団体の活動の様子を視察した。
3 日	外務省との面会 白須事務局長は外務省国際協力局国際保健政策室長の小沼士郎氏と面会し、GAVI ワクチンへの新規資金と複数年の拠出について意見交換を行った。
3 日～4 日	NGO-JICA 協議会@被さい地仙台 NGO と JICA の定期協議会が仙台市内で開かれ、東日本大震災による支援活動で得た経験や教訓を今後どのような形で両者が国際協力の分野でいかせるのかを議題に活発な意見が交わされ

	た。日本リザルツからは海老原職員が参加した。会議に先だって3日はJICAの代表とNGO側コーディネーターが、宮城県気仙沼市内にある3か所の被災現場も訪れた。
4日	シラク財団@帝国ホテル 白須事務局長等は都内の帝国ホテルで、シラク財団と国際連帯税についての意見交換を行った。
11日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口
12日～ 13日	STAND UP キャンペーン@議員会館 全国国会議員を対象に、MDGsのアドボカシーを行った。国際NGOのメンバーが国会議員に直接運動に参加する呼びかけを行い、日本リザルツのスタッフを中心に、オックスファム・ジャパンやセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのスタッフやボランティアの学生など事前の呼びかけに応じてくれた述べ30人余りが3～4人ずつ班を組んで館内に並ぶ議員の事務所を順番に回った。両日とも臨時国会の召集前とあって、在室だった議員の数は限られていたものの、議員の秘書の方々と壁にポスターを貼ったり、MDGs達成のためならと会議を中断して撮影に応じてくれた議員や即席で面会の段取りを組んで頂いた秘書の方々の御協力で活動を終了できた。鳩山一郎元首相や逢沢一郎議員、浜田昌良議員、川田龍平議員など多くの方々からご協力いただいた。
15日	ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会への出席
15日	株式会社メガネトップから老眼鏡の寄贈 岩手県釜石市や大槌町、陸前高田市の仮設住宅での聞き取り調査から、津波で老眼鏡を失ってしまった高齢者が多くいらっしゃる事がわかった。そのような状況を、白須事務局長が株式会社メガネトップに相談すると、メガネトップから約2,000個の老眼鏡を寄贈して頂いた。
16日	専門家相談会@洞泉雇用促進住宅 釜石市洞泉地区にある雇用促進住宅で専門家相談会を行った。この場所は、震災後、避難所や仮設住宅とは異なり、被災した家屋を失い入居した住民が生活していたが支援物資が全く届いていない場所であった。そのような場所で炊き出しと合わせて、中小企業診断士宮健氏や奥寺修税理士、畠山美代子保健師、心理療法士などの専門家が住民からの相談に応じた。また、16日からジャパンプラットフォーム(JPF)からの事業助成金を受けて支援活動を継続している。また、株式会社メガネトップから寄贈して頂いた老眼鏡が住民の方々から大人気であった。
20日	ハイチ入り 「ハイチのマザーテレサ」須藤昭子シスターのもとで研修を受けるため、スタッフの石塚がハイチに到着した。首都から1時間ほど離れたレオガンで須藤シスターの30数年間の努力で国内一の結核施設となったこれまでの経緯やハイチでの結核対策の現状を学ぶこと、また、2010年ハイチ地震で全壊してしまった結核療養所の病棟再建事業の補助を行うことなどです。在ハイチ大使館とシグノー結核療養所において、井戸掘削・給水施設整備のための草の根無償資金援助契約が締結された。
21日	内閣府を訪問 内閣府から、東北支援活動での生活・事業再建ハンドブック(内閣府発行)を届ける活動などの話を伺いたいという要望をうけ、白須事務局長と狩野、遠野スタッフとともに内閣府を訪問した。改訂版のハンドブックの作成にあたっての意見交換や、733名の住民からの聞き取りから作成した要望書を内閣府に提出した。

24日	<p>世界ポリオデー・イベント</p> <p>世界ポリオデーを記念して、外務大臣が出席したハイレベル会合、鳩山由紀夫・亀田興毅さんも参加され、東京タワーを紫色にするイベントなど4つの関連イベントが開催された。日本リザルツは、認定NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会（JCVC）と共催でポリオをはじめワクチンの普及が必要であると国民へ訴えるイベントを企画・実施した。ユニセフ東京事務所長、ポリオの会代表小山万里子氏などの患者さんたちを招いての200人以上の盛大な会となりました。最後にロックミュージシャンのアンダーグラフの真戸原直人さんで大いに盛り上がった。来日中のGAVIアライアンスのヘレン事務局次長もポリオデーのイベントに参加した。</p>
25日	<p>GAVI ヘレン事務局次長の来日</p> <p>GAVIアライアンスのヘレン・エヴァンス事務局次長がワクチンの普及活動に熱心な古屋範子衆議院議員、姫井由美子参議院議員を訪問し意見交換する機会をセッティングした。両議員は内外のワクチン普及に力強く取り組んでいくこと等を話された。また、ヘレン事務局次長はNGOとの意見交換も行った。</p>
26日	<p>中谷比呂樹氏の講演会</p> <p>世界保健機関(WHO)本部事務局長補の中谷比呂樹氏の講演会が慶応大学であり、リザルツも出席した。中谷氏からは地球規模課題の健康課題について最新のデータを用いた詳細な説明があった。</p>
27日	<p>現地の活動視察</p> <p>内閣総理大臣補佐官・衆議院議員末松義規氏がカリタスジャパンと日本リザルツの岩手県釜石市平田第一仮設団地での東北支援活動を視察され、現地での意見交換などを行った。</p>
27日	<p>厚生労働省との意見交換</p> <p>白須事務局長は、新規結核ワクチンに関して日本BCG製造株式会社の山本三郎博士(中央研究所所長、医師)と共に、厚生労働省の関係者と意見交換を行った。</p>
29日	<p>国際連帯税東京シンポジウム2011</p> <p>国際連帯税フォーラムが東洋大学で午後1時から5時間をかけて70名の参加者で連帯税の実施にむけての議論を行った。国際連帯税議連事務局長の西村智奈美衆議院議員、石橋通宏参議院議員、内閣府参与・元財務副大臣の峰崎直樹氏、外務省からは山田彰国際協力局審議官が参加し、最後に日本リザルツ白須が力強く宣言文を読み終了した。後日G20にむけての野田首相への要請文を齋藤官房副長官宛てに提出した。</p>
11月	
4日～ 12日	<p>リザルツ・グループ戦略会合@パリ</p> <p>2011年のリザルツ・グループの戦略会合がパリで開催された。白須事務局長が参加し、アメリカやイギリス、フランス、オーストラリアなどの各国リザルツとの議論を行った。</p>
4日	<p>調印式</p> <p>在ハイチ日本大使館でシグノー結核療養所再建のための契約を結ぶ調印式が行われた。この契約は、日本のお金で、全壊してしまった外壁と結核病棟を再建するもの。2010年の地震後、患者の治療は主に屋外やテントで行っている状況であり、少しでも早く患者さんたちに安全な施</p>

	設内で治療を与えられるようにとの要望に日本政府が応えたもの。
6日	現地活動の視察 内閣府広報室の石井達也氏が、リザルツの現地支援活動を視察し、仮設住宅での専門家相談会を見学し、住民との話し合いなどにも参加した。また、視察の際に撮影した写真が内閣府広報室のHP「私の復興便り」に掲載された。
8日	日本記者クラブでの記者会見 マイクロクレジットサミットキャンペーン報告書 2011年版(REF事務局編集)の日本語版(リザルツ作成)のお披露目を日本記者クラブにて記者会見を開催した。一橋大学経済研究所の黒崎卓教授、リザルツ岡本直彦監事、狩野伊知郎が参加して記者20名と質疑応答を行った。この会見を行うにあたり、日本記者クラブ企画部長石川洋氏、日本記者クラブ企画委員宮田一雄氏(産経新聞論説委員)に大変お世話になった。様子は、YOUTUBEで公開されている。日本語版は、リザルツHPからPDF形式で入手できます。
11日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口
13日	国際NGO世界連邦運動協会のシンポジウムへの参加 政策研究大学院大学の想海樓ホールで開かれた、国際NGO世界連邦運動協会主催のシンポジウム(テーマ:『ポスト3・11時代に求められる人類の地球的課題』)に、リザルツスタッフと関係者が参加した。
14日	東北支援活動の取材 家庭通信社の三好亜矢子記者が東北現地活動の取材をするために、遠野スタッフの活動に同行した。
19日～	ハイチ国での結核患者発見拡大プロジェクト開始 ハイチ結核患者発見拡大プロジェクト第一期(ジャバンプラットフォーム助成金)で角泰人医師(リザルツ顧問)がハイチに渡航し(～12月3日)、現地滞在の石塚彩調整員とともに現地の検査技師にLAMP法の研修を実施した。その後数日滞在し、フォローアップも実施した。
20日	専門家相談会@鶴住居第二E仮設団地 釜石市鶴住居町にある仮設住宅で、幸道医師、畠山保健師、荘司心理療法士、整体師等が参加し、専門家相談会を実施しました。「ここにこうして専門家の方が来たのは初めて」という住民の方の声がありました。
22日	米州開発銀行との意見交換 白須事務局長が米州開発銀行アジア事務所長の上田善久氏と面会し、ハイチ国の結核対策の資金などについて意見交換を行った。
23日	潮出版社の取材 白須事務局長が潮出版社の取材を受け、「pumpkin(パンプキン)」(平成24年3月1日発行)の「平和の文化と女性」(87頁)に記事が掲載された。
28日	フィリピンからの募金を東北へ リザルツはフィリピンの「バスーラの家」関係者からの東日本大震災被災者に対する募金を釜石市の野田市長に届ける調整を行った。釜石市市役所にて野田市長と面会した。一緒に同行したのは、フィリピンから来日した女子学生の方と、フィリピンのゴミ山「バスーラの家」の支

	援に携わっている現地男性スタッフ、「バスーラの家」の建設、運営に携わっている棚橋氏です。今回、フィリピンの地で、女子学生の方が中心となり、東日本大震災・津波の募金を集めてくださいました。フィリピン現地で、一人一食分のお金(約 20~30 ペソ)約 330 人分とのことです。12 月 10 日の釜石市復興新聞にて詳しく掲載されました。
12 月	
1 日	原稿執筆の依頼 先月 14 日に東北の現地活動取材した家庭通信社の三好亜矢子記者が東京事務所を訪問した。東日本大震災の復興支援に携わる NGO やボランティアの活動を紹介する書籍「支援のかたち(仮題)」(新評論)を出版するにあたり、リザルツに原稿執筆の依頼があった。
2 日	GAVI の新 CEO パークレー氏の来日 GAVI の新 CEO のセス・パークレー博士(と日本担当北島千佳氏)が来日、白須事務局長は朝食会に出席するとともに、ワクチン活動に熱心な民主党西村智奈美議員、公明党古屋範子議員との会合をセットした。古屋議員との会合記事は、翌日公明新聞に掲載された。これからも日本リザルツは、より広く日本の意思決定者および一般の方々の間にワクチンのことが広まるよう日本リザルツ GAVI キャンペーン事務局として日本語パンフを作成・配布するなど活動を続けていきます。また、外務大臣、厚労大臣などの面会后、夕刻から議員会館で各議員との意見交換を行った。議員側からは、日本でのワクチン行政の現状について報告があり、GAVI 側からは日本の官民からの一層の技術面・資金面の協力の要請があった。
3 日	専門家相談会@釜石市 釜石市仮設住宅で専門家相談会を実施し、畠山保健師、中小企業診断士宮氏などの専門家が参加し、住民からの相談に応じた。
8 日	質問主意書の提出 リザルツの釜石市周辺での聞き取り調査を受け、浜田昌良参議院議員が仮設店舗の整備に関する質問主意書を提出した。
9 日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口
11 日	専門家相談会@鶴住居町第二 E 仮設住宅 釜石市鶴住居町第二 E 仮設団地で専門家相談会を実施し、幸道秀樹医師による「血圧の知識」についての講座(午前と午後で各 1 回ずつ実施)と血圧測定、整体師による施術、心理療法士による心のケアを行った。
15 日	外務省を訪問 白須事務局長が、(特活) アフリカ日本協議会の稲場雅紀氏と共に、外務省国際協力局参事官の能化正樹氏と面会し、世界基金の理事会報告を受けた。
20 日	第 7 回アクションプランフォローアップ会合の開催 厚労省、外務省、JICA、結核予防会、STBJ の 5 者にてフォローアップ会合が外務省で開催された。本会合では、過去半年間の各団体の結核対策進捗状況の報告、第 25 回世界基金理事会報告、結核国際研修 50 周年記念式典の開催、STBJ 理事会総会報告などが行われた。今回の主要議題は、2008 年策定のアクションプランの改定作業であり来年改訂版を発表することになった。
21 日	ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会の開催

<p>参議院議員会館において、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会と、リザルツが協力して日本とも関係が深いザンビアの HIV・結核活動家の故ウィンストン・ズル氏追悼会を行いました。安倍晋三(元総理大臣)、坂口力(元厚生労働大臣)、菅原一秀、初鹿昭博、古屋範子(結核議連副会長)、参議院からは、梅村聡(議連会長)、大河原雅子(議連副会長)、谷合正明、浜田昌良(議連事務局長)議員等が参加し、総勢 60 名の皆様が集まり追悼の言葉を述べ、白須事務局長は、ズル氏と親交の深かった川田龍平議員の追悼文を代読した。小川沙良氏の尽力により、10 月 12 日にウィンストン・ズル氏の追悼文が「ランセット」に掲載(378 号 2011 年 11 月 12 日)された。</p>
